



World Sport Fishing Federation Oceania Inc
1/96 Yangoora Crs. Ashmore 4214. Gold Coast Australia
Tel: 61-7 55392296 Fax: 61-7-55395103 Mobile: 0419910439
Web: wsffo@tpg.com.au

受信：WSFF 役員ならびに関係者

内容：第四回スポーツフィッシングワールドチャンピオンカップ（釣りワールドカップ）2008
オーストラリア

大会の日程、競技内容、競技規定および宿泊施設に関する要点を確認してください。

参加希望者は、参加申請書を2008年3月15日までに提出のこと
また、参加に必要な書類を2008年4月15日までに提出のこと

参加費用：オセアニア以外の国からの参加者：100米ドル
オセアニア地域の国からの参加者：350豪ドル
自国からゴールドコースト空港及びブリスベン空港までの航空料金は自己負担とする
タルバジェラ会場までの交通費、船舶のチャーター費用、宿泊食事（自由選択の観光は別途）は主催国にて負担する

- 1. 目的：**2008年第四回スポーツフィッシングワールドチャンピオンカップ、オーストラリア（ゴールドコースト）を開催し、世界各国間での釣り文化交流を通して、釣りの技法と技量及び、釣り文化を向上させ、釣り愛好家の品格を高め、また、釣りを国民のスポーツとして定着させ、合わせて、世界平和実現に貢献することを目的とする。
- 2. 主催国：**オーストラリア
主管：世界スポーツ釣り連合、世界スポーツ釣り連合オセアニア支部
協賛：パシフィックマリンライフ学会、ドン・パーツ釣具ワールド
- 3. 参加国：**希望するすべての国から、国家代表として競技部門ごとに3名ずつの参加が可能。規定の申請期間以降においても受け入れの余裕がある場合は、追加的参加を認めるが、その場合には個人としての競技参加となる。
- 4. 日程：**2008年8月22日～8月26日
- 5. 宿泊：**全参加者（ゴールドコーストからの地元参加者も含め）は、友好を深める機会とするため、クイーンズランド州立スポーツ・レクリエーションセンターの6人名相部屋に宿泊するものとする。この施設はタルバジェラクリークと海岸の近郊にあり、禁煙禁酒となっている。釣り

場に近いので、余暇の時間は砂浜や岸壁で釣りを楽しむこともできる。競技会場まではタレバジェラから南方と北方 25 分の距離であり、ゴールドコースト空港までは 15 分で行ける。

6 . 競技スケジュール :

8月22日	第一日	選手入国、歓迎式、開幕式、競技規定説明会
8月23日	第二日	種目別予選および準々決勝
8月24日	第三日	種目別準決勝および決勝、海洋シンポジウム、WSFF 総会
8月25日	第四日	海洋シンポジウム、観光、表彰式、及び大会閉幕式
8月26日	第五日	解散、出国

7 . 競技会場 : クイーンズランド州ゴールドコースト周辺海域

8 . 参加選手 : 各国代表釣り選手 (船釣り総 80 名、磯釣り総 60 名)

- 1) 参加者は 2008 年 3 月 15 日までに参加申請書提出のこと
 - 2) 必要書類を 2008 年 4 月 15 日までに提出のこと
- 参加者はそれぞれ旅行者保険に加入してください。

9 . 参加費用 : オセアニア以外の国からの参加者 : 100 米ドル

オセアニア地域の国からの参加者 : 350 豪ドル

自国からゴールドコースト空港及びブリスベン空港までの航空料金は自己負担とする
タルバジェラ会場までの交通費、船舶のチャーター費用、宿泊食事 (自由選択の観光は別途)
は主催国にて負担する

10 . 競技規定と審判規定 :

【磯釣り競技規定】

現時点での競技規定であるが、2008 年 8 月 22 日の競技規定の説明会までに変更の可能性があることを了承してください。

競技日程 : 8 月 23 日 (日) と 24 日 (月) の二日

競技会場 : ツウィード川防波堤

参加選手 : 60 名

競技スケジュール :

- 1 . 競技は各組ごとの勝ち抜き戦とする。各レベルの勝者が次のレベルの競技に進む。
競技は、予選、準々決勝、準決勝、決勝戦の 4 段階である。
決勝での優勝、準優勝、第三位に金、銀、銅の優勝杯が授与される。
- 2 . 予選では 60 名の選手が 6 名ずつの 10 組に分かれる。
30 分ごとに釣りのポイントを交代しながらおこなう。
各組の上位 2 名が準々決勝に進む。

3. 準々決勝では 20 名の選手が、5 名ずつの 4 組に分かれて競う。
30 分ごとに釣りのポイントを交代しながらおこなう。
各組の上位 2 名が準決勝に進む。
4. 準決勝では、10 名の選手が 5 名ずつの 2 組に分かれて競う。
30 分ごとに釣りのポイントを交代しながらおこなう。
各組の上位 2 名が決勝戦に進む。
5. 決勝戦は 4 名の対戦となる。
30 分ごとに釣りのポイントを交代しながらおこなう。
順位は、全体の対戦が終了した後発表される。

競技規定：

1. 対象魚はキチヌ (Yellowfin Bream) とシマメジナ (Luderick) とする
2. 規定長は、キチヌ全長 25cm (口先から尾びれの先まで)、シマメジナは 27cm とし、総重量で競う。
もし、規定長の魚がなかった場合は、最初に対象魚を釣り上げた選手が勝者となる。
最初に規定長に満たない対象魚を釣り上げた選手は、まず自分自身で全長を測り、そのまま審判委員にそれを渡す。審判員は再度、その魚を計測し記録カードに記入後封印する。
審判員、記録担当者、選手が記録カードにサインした後、封印すること。
魚はリリースする。この手続きを踏まない場合には無効となる。
3. 魚を計測する定規は大会実行委員会で準備したものを使用する。
4. 規定長に満たない魚、および対象魚以外の魚はリリースしなければならない。
5. 参加選手は自ら、釣りの仕掛けを準備すること。使用するロッドは一竿、釣りの方法は浮き釣りとする。
6. 委員会が準備した餌を用い、それ以外の餌やカゴを用いることはできない。
7. 選手はくじ引きで所属の組、磯釣りのポイントを決定する。釣りのポイントは 30 分ごとに交代しながら進める。
8. 決勝戦では、1 番の番号を引いた選手が優先的に釣りのポイントを選択し、順次番号にしたがって決定する。ポイントは 30 分ごとに交代する。
9. 気象、海象の影響がある場合は、実行委員会と審判員が協議し、最終的な釣り場所、競技時間を決定する。
10. 実行委員会は一組の選手数に従ってラインを引きポイントを分割する。
選手は、このラインを超えることはできない。魚やウキを引き上げる等の理由でラインを超えざるを得ない場合は、3 分以内を限度とする。
11. ポイントの移動は、海面に向かって右方向におこなう。

12. 競技時間は、選手のポイント移動時間も含み、時間の停止はしない。
13. 各対戦時間終了は、実行委員会の定めたルールに基づいておこなう。
14. 競技の前に、実行委員あるいは審判員は競技の時間帯を発表すること。
 - 1) 時間合わせ
 - 2) 競技開始時刻
 - 3) ポイント移動の時刻
 - 4) 競技終了時刻

ポイント移動の5分ないし10分前、ならびに移動時にはシグナルが出される。また、競技終了の前には5、4、3、2、1の掛け声がある。選手にこのように知らせる事を原則とする。

15. 競技の開始と終了はホイッスルで合図する。
16. 競技前に選手は、餌を海に投げ込んだり、水深を測ることはできない。
17. 競技中には誰も釣りに関して選手を補助してはならない。
18. 競技終了の合図とともに選手は直ちに釣りを終了し、釣り糸を引き上げること。もし魚がかかっていた場合は、3分以内に引き上げたものを有効とする。
19. 決勝戦では、釣りの仕掛けはあらかじめ解除しておき、競技開始の合図に従ってロッドの組立て、釣り糸、釣り針の装着を行うものとする。
20. 決勝戦では、審判員と共に審判委員長または副委員長が競技場に同席して競技に立ち会うものとする。
21. 選手の誰かが競技規定に違反した場合は、直ちに役員までその旨を伝えること。大会委員会は競技が終了した後での抗議は取り上げない。
22. 何かの争議が生じた場合は、審判委員会あるいは審判委員長が最終的な判断をする。仮に選手がその判断を不服とする場合は、閉幕式の6時間前までに実行委員会宛に文書を持ってその意を伝えること。実行委員会は審判員との協議をもって事態の収拾に当たる。
23. 釣りワールドカップ 2008 の参加者は各自、旅行者保険に加入し安全に細心の注意を払うこと。競技期間内の事故に関して連盟は責任を負わない。
24. 実行委員会において何らかの見過ごしがあった場合は、連盟理事会を通して、後日それを連絡し公表する。
25. 大会前1週間の期間、参加選手は競技会場となる海域で試し釣りをすることはできない。

審査規定：

- 1 . 対象魚は、キチヌとシマメジナとする。
規定長（口先から尾びれの先まで）は、キチヌ 25cm、シマメジナ 27cm とし、判定は総重量をもってする。
- 2 . 総重量が同じ場合は、実行委員会は以下の基準で順位を判定する。
 - 1) 魚の総数
 - 2) 選手が選択した 3 匹の魚の総重量
 - 3) 最大魚 1 匹の重量
 - 4) 二番目の魚の重量
 - 5) 勝者が決まるまで順次魚の重量を比べてゆく
 - 6) 最終的には、くじ引きで一番若い番号を引いた選手を勝者とする
- 3 . 予選で対象魚が釣れなかった場合は以下の規定で順位を決定する。
 - 1) それぞれの選手が最初に釣り上げた魚の全長
 - 2) 全長が同じ場合は、最初の魚の重量で決定
 - 3) 全長、重量が共に同じ場合は、くじ引きで若い番号を引いた選手が組の勝者となる
- 4 . 魚を計測する定規は大会実行委員会で準備したものを使用する。
- 5 . 計測の前に審判員は魚を 3 度振って水を切る。それから計測結果を記録カードに記入し、審判員、記録担当者、選手が共にサインする。
- 6 . 計測前に、魚の口の中に小魚等が入っていないかを確認し、異物がある場合は取り除くこと。
- 7 . 予選で、1 匹も魚が釣れなかった選手は失格となる。準々決勝、準決勝で 1 匹も釣れなかった場合は、予選で釣れた魚の総重量が判定の基準となる。
- 8 . 決勝戦で、参加選手が一人も規定の対象魚を釣れなかった場合は、30 分の延長戦を行い、その大きさを問わず、2 種類の対象魚のどちらかを最初に釣り上げた選手がチャンピオンとなる。仮に、同時に釣り上げた場合は、魚の重量で判定する。対象魚が釣れなかった場合は、各選手がそれ以前の競技で釣り上げた魚の総重量をもって決定する。

磯釣り競技では、実行委員会は以下の装備を供与する。

- 1) ライフベスト
- 2) 魚の計測ルーラー
- 3) バッカン

【船釣り競技規定】

現時点での競技規定であるが、2008年8月22日の競技規定の説明会までに変更の可能性があることを了承してください。

競技日程：2008年8月23日（土）～24日（日）

競技会場：ゴールドコーストの東部海域

参加選手：約80名

競技スケジュール：

1. 競技は組ごとの勝ち抜き戦で行う。各レベルの勝者が次のレベルに進む。競技は予選、準決勝、決勝からなる。決勝戦での上位4名が受賞対象となる。
2. 予選では、80名が10名1組それぞれのボートに乗船し、10組に分かれて競う。乗船している時間は9時間であり、1時間の試し釣りの後、60分ごとに釣り座を交代しながら対戦し、競技時間は約5時間になる。各組の上位3名が準決勝に進む。
3. 準決勝での乗船時間は5時間。24名の選手が3つの組に分かれ、各ボート8名の選手で対戦する。競技時間は180分で、60分ごとに釣り座を交代する。各組（ボート）の上位3名が決勝戦に進む。
4. 決勝戦での乗船時間は5時間。一隻に9名の選手が乗船する。競技時間は180分で、60分ごと釣り座を交代する。入賞者と参加選手の順位は全競技終了後発表する。

競技規定：

1. 優先対象魚は：真鯛、アオバダイ、ブダイ

二次的対象魚：テラグリオン、ブリ、スギ、ヒラマサ、マグロ（さばを除く）

対象魚以外の魚は、死亡する確率の高いもの以外はすべてリリースする。
（上記のすべての魚は最大魚賞の対象となる）

2. 予選で、対象魚を一匹も釣れなかった選手は失格となる。
3. 対象魚の規定長（口先から尾びれの先まで）は35cmとし、釣れた魚の総重量で競う。規定長の魚が釣れなかった場合は、最初に対象魚を釣った選手が勝者となる。
4. 規定長以下でも、最初に対象魚を釣った選手はそれを計測し、確認のために審判員に渡す。審判員は再度、計測してから記録カードに記入したのち封をする。選手、記録担当者および審判員はカードにサインすること。魚はリリースする。この手続きを踏まない場合には無効とみなされる。もし、2名以上の選手が同時に釣り上げた場合には、魚の全長に従って順番を決定する。長さ

が同じ場合は、マダイ、アオバダイ、ブダイの順番に順位を決める。魚種と全長が同じ場合には、釣り座の若い番号を持つ選手が勝利者となる。

5. 釣った対象魚は、実行委員会の支給した計測器を使って選手自身が計測し、保管するかりりを決定すること。魚長は審判員が確認すること。規定長に満たない魚はリリースすること。すべて、魚長は重量計量の時点で確定する。(縮小する場合もありうる)
6. 選手は自ら釣りの仕掛けを準備すること。ロッドは一竿とし釣り針は2本までとする。ルアーの使用は認めない。釣り針は錘より下につけ、枝針をつける際のドロップループは30cmを超えないこと。釣り針とスイベルは実行委員会でも準備するが、装着は選手がする。
7. ボートで準備されているロッドとリールを使用しても良いが、装着は選手自らがすること。
8. ロッドの長さは195cm以下のものを使用し、道糸はモノフィラメント(単繊維)で15kgテストラインまでとする。電動ロッドおよびロッドスタンドの使用は認めない。
9. 餌は実行委員会が支給する。それ以外の餌及び疑似餌の使用は認めない。
10. 競技に必要な錘は乗船したボートで支給する。(8オンス~16オンス/225g~450g)
11. 乗船するボートと釣り座はくじ引きで決定する。
12. 決勝戦では、一番のくじを引いた選手が最初に釣り座を選択する。以下、番号に従って他の選手も選ぶ。
13. 実行委員会が同じボートに乗る選手の数に従って釣り座を定める。選手はその位置から移動することはできない。
14. 釣り座の交代の方法は、船先に向かって右回りとする。
15. ボートの移動時、釣り座の交代時および昼食の際にも、競技時間の停止はしない。
16. 各競技の開始と終了の時間設定は実行委員会の決めたルールに従う。
17. 競技に先立ち、実行委員会あるいは審判員がスケジュールにしたがって時間の発表をする。
(気象の影響などで、競技時間が短縮されることもありうる)
 - 1) 時間あわせ
 - 2) 競技開始時刻
 - 3) 釣り座交代の時刻
 - 4) 競技終了時刻

釣り座の移動および競技終了まえの5分、10分前に合図がある。また競技終了前には5、4、3、2、1の掛け声をする。選手にこのような方法で合図することと定める。

18. 競技の開始と終了はホイッスルで合図する。

19. ボートの錨は下ろさず、ドリフト方式とする。ボートの場所移動の必要性有無に関してはキャプテンの決定にゆだねる。選手はその決定に従うこと。競技終了のホイッスルがあり次第、選手は釣を終了し、道糸を引き上げ錘を船に置くこと。魚がかかっていた場合には、3分以内に引き上げたものを有効とする。
20. 競技の間は、誰も釣に関して選手を補助してはならない。
21. 大型の魚がかかった場合に、ボートの競技役員は状況によって、他の選手全員に道糸の巻上げを指示することがある。この指示が出された後にかかった魚は無効とする。ホイッスルに従って競技は再開する。
22. 選手同士の釣り糸が絡まった場合、その時に釣れた魚はポイントに入らない。魚はそのままリリースすること。
23. 決勝戦では、釣の仕掛けは一旦すべて解除する。競技開始のホイッスルの合図に合わせ、選手は釣竿の組み立て、釣り針、釣り糸及び錘の装着をする。
24. 決勝戦では、審判長または副審判長が競技場に同席して競技に立ち会うものとする。
25. 選手の誰かが競技規定に違反した場合は、直ちに役員までその旨を伝えること。大会委員会は競技が終了した後での抗議は取り上げない。
26. 釣りワールドカップ 2008 の参加者は各自、旅行者保険に加入し安全に細心の注意を払うこと。競技期間内の事故に関して連盟は責任を負わない。
27. 実行委員会において何らかの見過ごしがあった場合は、連盟理事会を通して、後日それを連絡し公表する。

審査規定：

1. 対象魚は、真鯛、アオバダイ、ブダイとする。
規定長（口先から尾びれの先まで）は、35cmとし、判定は総重量をもってする。
2. 規定長以上の魚が釣れなかった場合は、三種類の対象魚を最初に釣った選手を勝者とする。
3. 総重量が同じ場合は、実行委員会は以下の基準で判定する。
 - 1) 魚の総数
 - 2) 選手が選択した3匹の魚の総重量
 - 3) 最大魚1匹の重量
 - 4) 二番目の魚の重量
 - 5) 勝者が決まるまで順次魚の重量を比べてゆく
 - 6) 最終的には、くじ引きで一番若い番号を引いた選手を勝者とする
4. 魚を計測する定規は大会実行委員会で準備したものを使用する。
5. 計測の前に審判員は魚を3度振って水を切る。それから計測結果を記録カードに記入し、審判員、記録担当者、選手が共にサインする。

- 6 . 計測前に、魚の口の中に小魚等が入っていないかを確認し、異物がある場合は取り除くこと。
- 7 . 予選で、1匹も魚が釣れなかった選手は失格となる。準決勝で1匹も釣れなかった場合は、予選で釣れた魚の総重量が判定の基準となる。
- 8 . 決勝戦で、参加選手が一人も規定長の対象魚を釣れなかった場合は、30分の延長戦を行い、その大きさを問わず、3種類の対象魚のどれかを最初に釣り上げた選手がチャンピオンとなる。仮に、同時に釣り上げた場合は、魚の重量で判定する。対象魚が釣れなかった場合は、各選手がそれ以前の競技で釣り上げた魚の総重量をもって決定する。

順位の決定：

- 1 . 35cm以上の対象魚は重量を基準とする。
- 2 . 35cmに満たない対象魚は全長を基準とする。
- 3 . 対象魚以外の魚は、大きさに関係なく釣り上げた順番を基準とする。（これは、参加選手が上記の条件を満たすことができなかった場合に適用する）

実行委員会が供与するもの：

- 1) 魚を計測するルーラー
- 2) 各選手、バツカン1箱分の餌
- 3) 選手番号のついたライフジャケット

乗船スタッフの責任：

- 1 . 安全に関わるすべての法規定を遵守する。
- 2 . スケジュールに従って出航、帰港すること。
- 3 . 乗船スタッフは競技規定、審査規定を熟知し、審判員をサポートする。
- 4 . 各選手に不公平が生じないようにボートの操作を行う。
- 5 . ボート上でのルールに従う釣りの手順を説明し、実演する。
- 6 . 生餌の使用は認めない。また、クルーは自ら釣りをしてはならない。
- 7 . 競技が始まってからは、クルーは糸のもつれほどく、選手同士の糸の絡みを解く以外に、餌を付けたり、釣り針の付け替えなど、釣りに関して選手をサポートしてはならない。
- 8 . 餌を選手に配布する
- 9 . ドリフトをリセットする間に、昼食や飲料水を配布する。
- 10 . 行き帰りに、流し釣りなどをしてはならない。

11. 対象魚を目標として釣り場を選択する。
12. 対象魚以外の魚はすべてリリースする。死亡する可能性の高い魚は対象魚からは分けて保管し、クルーの責任で処理する。港に持ち帰った魚はすべて慈善団体に寄付する。
13. 魚はスラリーではなく氷の上に保管し、余分な水を吸収したり、脱水によって重量が失われたりしないようにする。
14. 対象魚は一切傷を付けてはならない。

11. 表彰:

団体賞：競技に先立ち、国ごとに3名の代表選手を選び、3名の選手の釣った魚の総重量で判定する。（参加人数が不均一であるためこの方式をとる）

優勝、準優勝、第三位にトロフィー授与

個人賞：磯釣り部門：優勝 US\$10,000 と優勝杯
準優勝 US\$ 5,000 とトロフィー
第三位 US\$ 2,000 とトロフィー

船釣り部門：優勝 US\$10,000 と優勝杯
準優勝 US\$ 5,000 とトロフィー
第三位 US\$ 2,000 とトロフィー

大魚賞：メダルと賞品

選手全員に参加賞を準備します。